



キャンパス / 京都府京都市、滋賀県大津市 学生数 / 22,029人 設置者 / 学校法人龍谷大学
 創立 / 1639年(1922年大学設置) 建学の精神 / 浄土真宗の精神
 学部 / 文、心理、経済、経営、法、政策、国際、社会、先端理工、農
 大学院 / 文学、心理学、経済学、経営学、法学、政策学、国際学、社会学、先端理工学、実践真宗学、農学
 THE 世界大学ランキング2026 / 1501+位、同日本大学ランキング2025 / 101-110位
 同インパクトランキング2025 / 601-800位



“教学創造こそ財政”を核に 学生が光り輝く大学へ

龍谷大学

20年先を見据えた「逆算の改革」で、創立400周年の理想に挑む龍谷大学。
 学生が光り輝くための拠点を再編する計画と、計画を支える財政戦略を聞く。



学長
安藤 徹

あんどうととおる ●名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。2000年龍谷大学文学部専任講師、2010年同学部教授。図書館長、文学部長、副学長などを歴任し、2025年より現職。

現状維持を脱する 20年先からの逆算改革

本学は1975年以来、5次にわたる長期計画を策定してきました。しかし、大学を取り巻く環境が激変する中で、従来の発想では本学だからこそその使命を果たせずに埋没するのではないかとという危機感が生じてきました。そこで、計画の立て方を抜本的に見直し、2019年度に「龍谷大学基本構想400」を策定しました。

新構想の最大の特徴は、計画の時間軸を20年という超長期にしたこと。10年スパンでは、直近の成功体験に縛られたり過去からの延長線上の改革になったりして、結果的に現状維持に流れやすいからです。

新構想では、創立400周年を迎える20年後の2039年のあるべき姿を明確にし、そこからバツ



灯炬館「るの森」



先端理工学部×農学部の取り組み



グローバルcommonsでの学生の活動



産学連携商品の販売会



結連橋

長期計画と学部開設・キャンパス再編の流れ

青字:学部新設関連
 黒字:施設整備関連

第5次長期計画 (2010～2019年度)	2011年度	深草キャンパス / 政策学部開設
	2011年度	大宮キャンパス / 白亜館(研究棟)
	2012年度	大学ブランディング開始。 「歴史と伝統」の認知が高い一方、「変わらない大学」と見られる危険を認識。
	2012年度	深草キャンパス / 22号館(教室棟)
	2013年度	りゅうこく国際ハウス(留学生寮)
	2015年度	深草キャンパス / 国際学部開設(瀬田キャンパスから国際文化学部が移転)
	2015年度	深草キャンパス / 和顔館(教室棟・図書館)
	2015年度	瀬田キャンパス / 農学部開設
	2015年度	瀬田キャンパス / 9号館(教室棟)
	2016年度	深草キャンパス / 専精館(第2体育館)
2018年度	大宮キャンパス / 東麓(教室棟)	
2019年度	創立380周年記念事業	
基本構想400 (2020～2039年度)	2020年度	深草キャンパス / 7号館(旧図書館)を解体し中央広場拡充
	2020年度	深草キャンパス / 成就館(課外活動棟)
	2020年度	深草キャンパス / ミトラ館(留学生寮)
	2023年度	深草キャンパス / 心理学部開設
	2024年度	瀬田キャンパス / Rest Nest(教育研究用宿泊施設)
	2025年度	深草キャンパス / 社会学部が移転
	2025年度	深草キャンパス / 灯炬館(北エリア・教室棟)
	2025年度	深草キャンパス / 蘭思館(南エリア・教室棟)
	2025年度	深草キャンパス / 慧光館(南エリア・教室棟)
	2025年度	深草キャンパス / 朋友館(西エリア・課外活動棟)
	2025年度	深草キャンパス / 結連橋(北エリアと南エリアをつなぐ通路)
	2025年度	大宮キャンパス / 心理学部3年生の学修開始
	2025年度	大宮キャンパス / 黎明館(教室棟・中高大共用)
	2027年度	瀬田キャンパス / 情報学部(仮称)と環境サステナビリティ学部(仮称)開設予定*2

* 2027年度キャンパス名称を変更予定(深草キャンパス→京都深草キャンパス、大宮キャンパス→京都大宮キャンパス、瀬田キャンパス→びわ湖大津キャンパス)

クキャストイングで施策を策定。現状に縛られない大胆な改革を立案しました。その一方で、「*1ローリングプラン」によって、社会情勢の変化や計画の進捗を見ながら柔軟に軌道修正を行っています。

学生主役の環境整備と「教学創造」の財政戦略

構想で描くのは「学生が光り輝く大学」になること。学生が本学での学びの成果を生かして社会で活躍すれば、本学も未来も輝きます。主役の学生が構想の中で定めた「育むべき力とマインド」を身に付けられるよう、3キャンパスの特色化を図る「キャンパスブランド構想」を推進しています。

メインの深草キャンパスは、社会科学系の知の拠点として瀬田キャンパスから社会学部を移し、新校舎4棟も建設しました。また、キャンパスの北エリアと南エリアを分断していた道路の上に「結連橋」を架けました。往來の利便性を図る上空通路であると同時に、本学が目指す「つどい、つながり、つむぐ」大学の姿を象徴的に表現するものでもあります。

滋賀県にある瀬田キャンパスは、自然科学を中心に地球規模の課題解決を先導する拠点とすべ

く、2027年に情報学部(仮称)と環境サステナビリティ学部(仮称)を開設予定です。大学発祥の地である人文科学系の大宮キャンパスは、「伝統と創発」をテーマに再整備し、2025年には物事の始まりを意味する言葉を冠した「黎明館」を新設。隣接する付属平安中学・高校との新たな中高大連携拠点になっています。

こうした施設設備の大規模整備は、魅力的で有意義な教育内容を創造するための道具立てです。文科省の「大学・高専機能強化事業」の補助金等の獲得や、金融機関と意思疎通を図りながらの適時・適正規模の借り入れなど、将来を見据えつつ教学展開に必要な資金をいかに調達するかは、財政の主要な使命であり、知恵の絞りどころです。学生も含めた多様なステークホルダーから信頼され、評価される教学展開の実現によって安定的な長期財政も確立する——これが、本学の掲げる「教学創造こそ財政」という財政理念です。

2028年には、産学学連携による新イノベーションハブ「共創HUB京都(仮称)」が京都駅前で始動する予定です。今後も柔軟かつ健全な財政運営に基づく改革に取り組み、地域社会そして世界に貢献する大学であり続けます。

「共創HUB京都(仮称)」の概要

完成イメージ。京都駅近の線路に隣接した場所に設置予定。



フロアと機能、事業者	
7-8階	交流型賃貸マンション(大阪ガス都市開発)
5-6階	交流型学生寮(共立メンテナンス)
3-4階	サテライトキャンパス(龍谷大学)
西側1-2階	スタートアップ支援型拠点 & シェアオフィス・プロジェクトスペース(京都信用金庫)
東側1-2階	料理学校(ル・コルドン・ブルー・ジャパン)
東側1階	アーツスペース(寺田倉庫)

注目！ ステークホルダーとの連携から成る「共創HUB京都(仮称)」と「S認証」

龍谷大学は大阪ガス都市開発、京都信用金庫と連携し、京都駅至近に産学連携イノベーションハブ「共創HUB京都(仮称)」を2028年に開業する予定だ。企業や金融機関のオフィス、サテライトキャンパス、交流型学生寮、若手起業家向けの交流型賃貸住宅を備えた、地域の課題解決を推進する拠点となる。1階～4階の共創スペースはシームレスに接続され、起業家や社会人、学生の交流を創出する。サテライトキャンパスは他大学の学生や一般社会人にも開放し、学外に開かれた新しい学びの機会を提供する考えだ。

また、ユネスソーシャルビジネスリサーチセンター*3が中心となって複数の信用金庫と共同で進めてきた「ソーシャル企業認証制度(S認証)」は、登録認証企業・団体が約1,600件に上る。S認証は社会課題に取り組む地域企業・団体を評価・認証し、成長を支援する枠組みだ。「ステークホルダーとの連携を通じて、社会から評価される教学内容を創造し続けることが志願者確保や外部資金獲得につながり、健全な財政と存続を支える基盤となる」(安藤学長)。

*3 「仏教SDGs」の推進、研究および具現化を行う、ソーシャルビジネスに関する中核的な役割を担うセンター

*1 20年間の長期計画の中で、1期4年の「中期計画」を5期にわたって作成し、適宜、軌道修正しながら展開すること
 *2 2027年4月開設に向けて設置構想中。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合がある

取材・文 / 鈴木康介 撮影 / 根津菜美